きょうかいがっこうコーナー　　2021 年 10 月3日（日）　年間だい27の主日

**　明日は「アッシジのせいフランシスコ」のおいわいびなので、ふくいんのかわりに、どんなせいじんだったかをすこしせつめいしたいとおもいます。**

　むかしイタリアのくにのアッシジというまちにフランシスコというすごくあかるいせいねんがいました。まちのいちばんおかねもちのけおりものしょうにんのピトロとピカふじんのもとにうまれ,、なにふじゆうなくたのしくくらしていました。

　フランシスコがおおきくなったころアッシジのまちはとなりのまちとせんそうをはじめました。フランシスコもでかけていっていっしょうけんめいたたかいましたが、アッシジのまちはまけてしまいました。フランシスコはせんそうをみて心がいたくなって、どんなことがあってもせんそうをしてはいけないとけっしんしました。びょうきになってたかいねつがでて、おきあがることができないほどあおもいびょうきになりました。そのときふしぎなこえがをきこえました：「おうちへかえりなさい。そこで、おまえのするべきことをしらせよう」

　フランシスコはアッシジにもどると、すぐまえとおなじようにまいにちおともだちとあそんでばかりいました。しかしあそんでばかりいると、なんだか心がからっぽになっていくとおもえるようになって、いままできていたりっぱなふくをぬいで、まずしいひとがきているようなふくをきて、まちのなかをあるくようになりました。そのすがたをみて、おともだちにもからかわれるようになりました。そのうえにおとうさんもフランシスコのすがたをみてはずかしくおもい、きょうかいのしきょうさまのところにつれていって、そのすがたをやめるようにたのみました。そのとき、フランシスコはきていたふくをぬいで、もっていたおかねといっしょにおとうさんにさしだしました。「いままで、わたしはあなたをおとうさんとよんでいました、しかしこれからは、てんのかみさまだけをおとうさんとよびます」こうしてすべてをなくして、かみとひとびとにほうししようとかたく心にきめました。

　サン・ダミアノというこわれかけた小さなきょうかいがのはらにあり、そのまんなかにおおきなじゅうじかがありました、フランシスコがそのまえでいのっていると、イエスさまのかおがうごいたようにみえました。イエスさまが「フランシスコよ、さあ、たってたおれかけているわたしのきょうかいをたてなおしなさい」といわれたので、フランシスコはそのきょうかいをたてなおすためにおとうさんのざいさんをつかいました。

フランシスコのいきかたをみて、たくさんのひとが、かれのそばにあつまりました。フランシスコは、もり、くさ、はな、ことり、うおやけもの、すべてうつくしいしぜんをこころからあいしていました。フランシスコがすんでいたグッビオのまちに、ひとくいオオカミがいて、まちの人たちからおそれられていました。フランシスコがはなしかけるとオオカミがおとなしくなり、まちはオオカミにおそわれなくなりました。
フランシスコは、たいよう、つき、かぜ、みず、ひ、くうき、だいちをあいし、かみさまをさんびをしていました。またびょうきのひとたちおせわをしていました、

フランシスコは、ラ・ウェルナの山でまいにちいのっていましたが、イエスさまのきずあとをもらって、とてもからだがよわくなりましたので、サン・ダミアノのちかくのこやにすむようになりました。

フランシスコはしぜんをこころからあいし、そのしぜんをつくられたかみさまをほめたたえるために、ひとびとをなぐさめ、かみさまのおしえをひろめていきました。
フランシスコは、じぶんのいのちがのこりすくないのをかんじ、しぬまえにもういちど、アッシジをみたいとおもいました。そののぞみどおりきょうだいたちによってアッシジへはこばれ、しずかにいきをひきとりました。そのときにたくさんのひばりがうたいながらそらたかくまいあがって、てんごくにいくフランシスコをみおくりました。

フランシスコがのこしてくださったうた。“たいようのさんか“です。

「いとたかいおかたよ　あなたはほめたたえられますように
あなたのつくられたすべてのものとともに

きょうだいであるたいようは　おおいなるひかりによって　かがやきわたり
しまいであるつきとほしは　よるのそらに　うつくしくちりばめられています

わたしのしゅよ　　あなたはほめたたえられますように

（アッシジのフランシスコより）